



学校だより 深町小学校
平成30年10月23日号
学力特集号
文責 校長 針尾泰久

学校教育目標
「豊かな人間性をそなえ、主体的で
確かな実践力をもつ 児童の育成」

3つの花を、大きくさかせましょう。



平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1 教科に関する調査結果の概要

【国語A】

- ・全体的には全国平均正答率を下回っていた。しかし、「話すこと・聞くこと」は他の領域と比較して正答率はやや高かった。
- ・「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全国平均正答率を下回っていた。

【国語B】

- ・全体的には全国平均正答率を下回っていた。しかし、「読むこと」については、全国平均正答率と同程度であった。
- ・「話すこと・聞くこと」については全国平均正答率は下回っていた。

【算数A】

- ・全体的には全国平均正答率を下回っていた。しかし、「数量や図形についての技能」は全国平均正答率と同程度であった。
- ・「数と計算」は全国平均正答率を下回っていた。

【算数B】

- ・全体的には全国平均正答率を下回っていた。しかし、「数と計算」の領域は、他の領域よりは上回っていた。
- ・「図形」領域については、「量と測定」「数量関係」の領域よりも全国平均正答率を下回っていた。

【理科】

- ・学習指導要領の「A区分」「B区分」については、全国平均正答率を下回っていた。
- ・「B区分」の地球に関する点については、課題が残された。
- ・「人の骨が曲がる仕組み」「堆積作用に関する科学的な概念」「乾電池のつなぎ方における電流の流れの変化」「質量保存の法則」については、全国平均正答率を上回っていた。

2 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

- ・授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
- ・家庭では計画を立てて学習を進めている。 ・家庭では学校の宿題を進んでいる。
- ・学校の授業以外に、普段(月～金)1日60分以上学習している児童は全国平均と同等である。
- ・地域とのかかわりは、児童にとっては大変深い関係にある。地域の祭りなどの行事については、積極的に参加している。
- ・朝食を毎日食べている児童は多い。 ・毎日、同じくらいの時刻に寝ている児童は多い。
- ・学校のきまりを守るなど規範意識は高い。
- ・自分には、よいところがあると感じている児童は全国平均と同等である。
- ・人の役に立つ人間になりたいと思っている児童は多い。

3 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で、学年で、学級で)

○担任は、一単位時間の学習のなかで、めあてを立てる時間とまとめをする時間を確保する。学習の終末段階に「振り返り」を記述させ、次時の学習につなげさせます。また、一単位時間の学習の流れを繰り返すことにより児童に学習スタイルを習得させ見通しをもって学習に取り組ませる取り組みを継続して行います。

○担任や関係職員は、本校の課題(ウィークポイント)をもとに、「チャレンジタイム(朝自習)」でウィークポイントに特化した内容を重点的に「ウィークポイント解消週間」で1学期同様取り組みます。(算数プリント、アシストシート、WEB問題等の活用)

② 家庭生活習慣等に関する取組

○担任は、家庭学習の進め方を児童に指導を、児童の発達を考慮しながら家庭学習の定着を図ります。また校長は児童の家庭学習の取組を理事会等で確認、家庭学習の大切さを伝えていきます。また、保護者には児童の実態を学校通信や理事会等で伝え、理解をもらい、協力してもらうように全職員で努力します。